

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100029		
法人名	医療法人 馨仁会		
事業所名	グループホーム花トピア姫		
所在地	岐阜県多治見市大針町672-2		
自己評価作成日	令和 元年10月 4日	評価結果市町村受理日	令和 2年 1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100029-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100029-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和 元年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者の思いを汲み取り、ある程度個人のペースを保ちながら生活している。 ②家族との関係を断ち切らない様に、文章・便りを発送し面会を兼ねて日用品、寝具、衣料等の入れ替えを行って もらっている。 ③音楽療法・レクリエーション・月行事を計画、ボランティアの受け入れ、児童センターの子供達との定期的な慰問を通じて外部との交流を図っている。 ④認知カフェを開催している。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者職員が共に明るく快活である。大きな声での発声練習や早口言葉はスピードを変えて何度も繰り返して機能の維持向上に努めている。利用者職員が声を掛け合って体操をしたり、読み手の大きく通った声で紙芝居も演じたりしている。職員が自作した複数の創作パズルも楽しんでいる。居間の飾り付けや整理整頓は利用者も役割を担う形で喜びを感じながら参加している。 毎月担当職員が利用者個々の様子を手紙に書いて家族へ送付している。送付前の手紙は⇒リーダー⇒管理者が目を通すことで利用者一人ひとりの様子が共有出来ていく仕組みがある。 職員同士の関係は良好で話し合いがいつも出来ている。職員同士はどんなことでも当たり前とせず”ありがとう”と言うようにしていると発言があり良好な関係が構築されている。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	分かりやすい所に理念を掲示し意義を理解し取り組んでいる。	ホームの理念は玄関に入った正面の目に留まり易いところに掲示してある。職員は年数回唱和して理解に努めている。管理者はケアプランに理念を織り込むように指導することで浸透に努めている。	理念が具体的な介護に繋がるよう「拠り所」となることへの理解を深めるためには継続的な理解・周知に向けた取り組みが必要であろう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童センターより慰問、地域ボランティアを依頼し交流を深めている。	ボランティア活動家による慰問が頻繁に行われている。フラダンスショー、大正琴演奏会、踊りの会、手品ショー、マンドリン演奏会、二胡演奏会など年間を通して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し地域の方に認知症の理解などを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会と同日に運営推進会議を行い、多くのご意見を徴収して改善策を検討している。	運営推進会議は適切な回数を開催しており、出席者は市職員、包括支援センター職員、地域代表、利用者家族などである。同時に家族会や身体拘束防止委員会なども行っている。	外部評価結果や目標達成計画の進捗についての報告がない。ホームの姿勢を伝え、協力を得るための取り組みとして活用して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者との連携をとり、意見交換会などで利用者の暮らしぶりや現状を伝え情報交換し連携を図っている。	市担当者とは電話でいつでも相談できる状態にある。市主催のグループホームが集まって行う「情報交換会」(市福祉センター)に出席してホームの状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員勉強会で理解・共有し意識を図り、職員間で話し合っている。	3ヶ月毎に「身体拘束検討委員会」を行っている。管理者、リーダーは「虐待・身体拘束対応研修」に出席して意識向上に努めている。ホームの勉強会は職員が講師を務めて年に2回行っている。また、スピーチロックによる不適切ケアにならぬ様職員同士で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会の中で理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる、ご家族には個別に紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において、約款、重要事項説明書含め、説明し疑問点等も聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は、日頃より聞いており(食事など)ご家族様には、ケアプラン説明、又は家族会など直接お話しして聞いている。	家族会や家族が面会に来訪した時に意見を聴く様に努めている。聴いた事柄は介護日誌に記録して職員で共有した上で反映出来るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などを通して日常から、コミュニケーションをとり意見などを聞いている。	毎月のフロアー会議は利用者に関することをテーマに意見交換をしている。同じく定期的な会議は勉強会や福祉サービス向上に関することが議題になっており意見は運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間や有休の消化をしっかりと、健康にも気を配り、職員同士声掛け助け合って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ積極的に参加し、研修の感想やまとめ等を提出し実践に向けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政、社協の意見交換会や研修において、交流を図りホームの質の向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族と面談し不安・要望を聞き取りニーズ把握の為のアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネや利用している事業所より情報提供を頂き必要支援の確認・家族と話合う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族から困っていること、要望・現状などを聞いて職員間で話し合い必要支援を提供出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いなどを知る事に努め協働しながら生活している。共に支える関係作り、得意なことへの取り組みが出来るよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日頃の様子や毎月のお便りに日々の生活の様子を担当者が知らせるメモを添えて職員、ご家族と共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来訪して頂き交流を楽しんで頂けるよう開放的な雰囲気作りを心掛けている。ご家族との外出もお願いしている。	家族との面会が一番の馴染みとなっている。家族会を始めイベントの案内を郵送して家族の参加を呼び掛けている。馴染みの関係作りの一環としては花見や喫茶店に出掛ける等の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、情報を共有し楽しい時間が過ごせるよう職員が調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々施設訪問を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活において本人様の希望を傾聴し、また伝達出来ない方においては、本人様の様子を伝え、ご家族様の願いを実現できるよう配慮している。	利用者には担当職員が設定されており、努めて会話の中で聴くようにしている。入居前の情報を基に家族から詳しく聴くなど定期的なアセスメントをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、担当ケアマネと面談し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、日誌、申し送りノートの活用と、細やかな報・連・相により、日々の様子と変わりが無いかを観察し、迅速な対応を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員を受け持ち制とし本人、家族の要望を聞き介護計画を作成。また毎月のカンファレンス時で職員間の意見交換を行い、多様な気づきを取り入れている。	利用者毎の日々の様子は詳細に記録している。ケアプランは3ヶ月毎に見直している。モニタリングはケアプランの見直しに合わせて行っており、毎月行われるカンファレンスで検討されケアプランに取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の把握を基に、職員間において細やかな情報交換を行い、見守りや介助において共通の認識を持ち、介護計画に則して実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ通院等、必要な支援や要望を伺い、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、音楽療法、ボランティア等の受け入れ。民生委員、地域包括支援センター、町内会長等から周辺情報の協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明時、かかりつけ医との連携について説明、同意を得ている。利用者、家族にとってのかかりつけ医への想い等、何うようにしている。入居後も家族との面談で再確認出来ている。	利用者は協力医療機関で対応している。また、毎月2回看護師の来訪もある。訪問歯科は随時利用している。専門医の受診は家族が引率するが可能な範囲で職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時だけでなく、日頃より異変を感じたら看護師に報告、相談し指示を仰いでいる。受診時、入院時等は受診先の看護師と連絡を取り、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携先の病院へ入院した場合、入院時のサマリーや電話連絡先等で情報交換し、退院予定日近くなれば、経過確認等の情報交換を行っている。その他医療機関とも相談員等を通して情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、その後の家族の面談等で本人、家族の意向を伺い、それに添えるよう事業所が対応し得る最大の支援方法をチームで話し合い支援に取り組んでいる。	入居時に「医療連携体制についての指針」の中で重度化した場合の方針を説明している。同時に医療連携体制についての同意書を交わしている。看取りは行わず同一法人の老健施設か入院を方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法やAED講習を計画、実施し職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年一回、自主訓練一回を利用者と共に、通報訓練、消火訓練を行っている。施設が福祉避難所となっている。	地震想定を含めて避難訓練を年2回行っている。役割分担をしなくても職員が機転を利かせた行動が出来ていた。年一回は消防署の協力を得て避難指導を受けたり、緊急救命の勉強会をしたりしている。	ホームが「福祉避難所」の指定を受けていることについて地域に対して周知する取り組みがない。地域との協力体制の強化のためにも今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ等は、プライバシーなので大きな声で言わず誘っている。違っていても否定せず、前向きに考えるよう支援している。	利用者固有の情報はホームの外では話をしない。ホーム内でも利用者個人に関する内容は内容に配慮して小声で話をする。接遇や人権擁護の研修会の機会を得て職員の意識向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりと、ゆっくり話をする時間をつくり希望に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強要せずテレビを観たい方、何かしたい方は希望を聞きレク、手伝い等して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、入浴時の服選び、好みの服を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか一人ひとりに聞いてメニューに取り入れている。トレイ拭き、コップの下膳、玉ねぎの皮むき等して頂いている。	食事は利用者と職員と一緒に摂っている。月に一回の割合で利用者の要望を献立にしている。行事食は季節感が出る物を提供する様に努めており誕生会も利用者のリクエストに応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶の時間、おやつ時間にて、こまめに水分摂取をしてもらっている。一人ひとりに合った量をバランスよく、嚥下機能等の配慮、かかりつけ医の指示にて食事形態や物により代替をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。声掛け、介助にて夜は義歯を消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレへの誘導、ご本人がトイレへ向かう際に必要な介助を行っている。	排泄誘導は本人だけに伝わるよう声を落として行っている。利用者殆どが自立している状態なので見守り介助である。ホーム全体でオムツを出来るだけ使わない様に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄回数のチェックを行い、食事、水分摂取量を確認、注意している。また、便秘時は主治医が処方した下剤を内服して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は決まっているが、ご本人の体調等を考慮して入浴をシャワー浴にしてみたりと調節を行っている。	入浴は週3回午前中に行っている。一人ひとり体調を見ながら温度調整したりシャワー浴を勧めたりしている。入浴中は羞恥心やプライバシーに配慮した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わずご本人様に応じた対応をさせて頂いている。主治医より眠前薬の処方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更、追加等があった場合は服薬後の観察をしている。薬の内容は、ファイルに保管し職員が確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を分担して、洗濯干し、たたみ、テーブル拭き、トレー拭き等を行っている。レクリエーションも一人ひとり得意である事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションで外出、外食(喫茶)に出掛けたり家族と一緒に外出して頂くよう声掛けを行っている。	日常的な外出はホームの周りを散歩している。特に好天の日は中庭で遠くの景色を眺めながらおやつやお茶を楽しんでいる。花の季節は桜見物をし、秋はドライブ&喫茶を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてお預かりし管理。外出レク(外食、喫茶)訪問理美容、必需品購入等に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間をハイターの薄め液で消毒し常に清潔を心掛けている。花を置いたり季節の塗り絵、飾り物を飾っている。	共有空間の居間は太陽光が差し込む構造で大変明るい。年2回は清掃専門業者が入って清潔さを維持している。居間は飽きが来ない様に雑誌などからヒントを得て飾り付けに工夫をしており、利用者の作品の展示もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にソファ、椅子を設置しており、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて使用していた家具や小物等持込して頂いている。	ホームはベッドを一様に備え付けている。それ以外の生活必需品などは全て利用者が自由に持ち込んでおり自宅と同様な居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事は、声掛け見守りにて行って頂いている。タンス引き出しには(肌着、タオル等)表示し分かり易いように心掛けている。		